

令和3年10月1日（金）14:00～16:10

まちづくり課商工観光係

於：うみハピネス1階多目的ホール

## 第1回 宇美町地域公共交通会議議事概要

### 1 委嘱状の交付

- ・机上にて配布

### 2 開会挨拶

- ・会長（高場副町長）が行う。

### 3 自己紹介

### 4 報告と協議事項

#### （1）町の地域交通の現状と課題について（14時17分～）

（事務局） 資料1、2P説明

（委員） 地域の声として、通院のための手段が午前中に一本なので、もう一本あればという意見が聞かれた。

（委員） ハピネス号はいつも空で走っているのが目に付く。乗っていたとしても、高齢者が多くて4～5人。事業費として相当な費用がかかっているようなので、見合う合理的な運営としてこれでいいのかという声。

山地や振興団地等多くあり、地区によって地形が違う。そういったところ以外は路線バスを利用すれば間に合う。そうでないところが問題であり、満遍なくどこにでも走っているバスというのはもったいない。

（委員） 現状としては利用者が減少してきている。これから説明する原案を聞いて、今出た課題等を重ねて検討協議に入れればと思う。

#### （2）福祉巡回バス見直しの経過について（14時30分～）

#### （3）今後の方向性について

（事務局） 資料3～5P説明

（会長） 町としては「のるーと」を利用していきたい。「のるーと」についてご意見等あればいただきたい。

（委員） 住民アンケートについてはどのように進めるのか。

（事務局） 職員が実際にハピネス号に乗車して、利用者の方に有料化の話も含めた聞き取り調査をしていきたい。ほかにワクチン接種会場、乳幼児健診会場で幅広い世代に聞いていく予定。その結果については、2回目の会議以降で詳細をお知らせできれば。

- (委員) 対象者数はどれくらいか。高齢者の半数以上が接種を終わっている所以对象の偏りが心配。
- (事務局) ワクチン接種予約状況で接種者の年齢はすでに分かっており、かなり幅広い年齢に聞き取りできる。1日で100人程度、3~4日で300人程度聞き取りができる見込み。回収状況を見ながら、例えば老人福祉センターも伺うなどして、世代に合わせた場所を選んで意見を頂く予定。
- (会長) 年齢もエリアも幅広く網羅できるようにすべきである。ハピネス利用者も利用者以外も、均等な意見が聞けるようなアンケートの取り方をしたい。
- (委員) 介護予防教室開催の際に、バスの停車場所やタクシーの経路等を考慮すると、現状では来たいけれど来られないという方がたくさんいた。そこを考えると「のる一と」はすごくいい制度だと思う。周知徹底されることによって、利用しない世代の遠慮や不安を拭ってほしい。有料でもいいからという声はたくさんあった。
- (委員) 子育て施設を利用するママさんの声として、子育て世代はベビーカーを乗せられるのか、子供が騒いで迷惑をかけないだろうかという不安があり、ハピネス号を利用できていない。その点についても今よりも小型車になることで子供と一緒に乗っていいのか、ベビーカーは乗せられるのか不安がある。アプリについては若い世代はすぐに使いこなすだろう。
- また、これまで子どもだけでは校区外である図書館に行けなかった。子供自身で図書館に行けるようになるといい。
- (事務局) ベビーカーについては今後も運転手さんにサポートしていただけるような方向で考えている。運転手の方にも運行に先立って、練習期間というのを設ける予定なので、利用者の方にも安心していただけるような対応ができるのではないかと。
- (会長) 原案としてはタクシーの運転手さんをお願いした方がいいのではないかとという方向での考えである。
- (委員) 今のタクシー乗務員をこのままオンデマンドバスの運転手として使うのか決定していない。旅客運送業として大変な赤字を抱えたコロナ禍の中で、事業を立て直す時間なく、この事業に入っていかなければならない。オンデマンドバスに乗るお客さんと、タクシーのお客さんとどれくらいの比率で移動していくのか、それが経営状態にどれくらい影響を及ぼすのか。一連の中で考えて計算し、答えを出していかなければならない。今の感覚では、今すぐにタクシーの運転手からオンデマンドバスの運転手にとは考えておらず、別の新しい事業として立ち上げ、乗務員は新規採用して別の給料体系を組みながらでないといけないのではないかと思う。
- (会長) 具体的に事業にするということは色々な課題を超えていかねばならず、ハピネス号については、一年間契約を延長して検討の時間を取ることは必要。木村タクシーさんについても、同じような考えか。

(山 本) (同意)

(会 長) ありがとうございます。

(委 員) オンデマンドバスの運行が始まると、現在の西鉄バスの運行は間引きする  
のか。

(委 員) ハピネス号も通常の路線バスも、昼間は乗車が少ないという現状はある。  
オンデマンドバスの利用が増えるのであれば、上宇美や JR 宇美駅での乗り  
継ぎで利便性の向上を図るなどの検討は必要であるとする。

また、現在運行しているアイランドシティでの「のるーと」は、後ろにス  
ペースがあるので荷物やベビーカーも積込みは可能。アプリにクレジットを  
登録できるので大人がアプリで予約し、子供さんが運賃を払うことなく、子  
供だけでの習いごとの乗車に利用してもらっている一例がある。

(会 長) 西鉄路線が減るのか、何とか残してほしいという意見が多いのか、その辺  
りも意見が取れるのであれば集約したい。

(委 員) 5P にハピネス号からの移行期間 2 月とあるが時間が足りない印象。

事業所が千早にあり、千早からアイランドシティへ向かう「のるーと」は日  
頃常に目にするが、乗ったことはなく、正直乗りにくい感じがする。パンフ  
レットはあるが、どういうものなのか。「のるーと」をわかっている人だけが  
どういうものか知っていて、乗っていない人は知らない、わからない。住民  
に向けて「のるーと」の開発者である西鉄からのしっかりした説明があれば  
ありがたい。

7 月に町民代表の方々が宗像市に行って、実際に乗車し、前向きな意向が  
あったことは住民にしっかり知ってもらわなければならない。

意外と老人の方は予約することが嫌。気さくに予約できることをわかって  
もらわなければならない。

有料になっても結構と認識してもらわなければならない。有償にして、町の財政につ  
いても町民の方にしっかり考えてもらわなければならない。(例：一人 200 円×  
60,000 人利用=1,200 万円)

(会 長) 十分検討したうえでアピールにも力を入れていかなければならない。

(事務局) 移行期間 2 月というのは、同時に運行している期間。実証期間は一年間あ  
り、令和 5 年度いっぱい設定している。利用状況を確認しながら検証を行  
い、判断を行っていく考えである。

(委 員) 運行を打診されるタクシー会社にとってメリットはあるのか。

(委 員) 基本的にはタクシー会社としては、この事業には反対。料金の問題があ  
り、かなり抱えている従業員に給料を払わないといけぬ。ただ、行政の中  
で考えると、地域活性化のためには一概に反対だけとはいかない。町が活性  
化するならば総合的には良い。今の段階では、あまり両手を挙げて喜ぶよう  
な話ではない。ただ、どうすれば宇美町をよくできるのか、一緒に協力し  
て、努力していくことには間違いはない。

(委員) 事業者に無理強いすることはできないが、町のためというお話があったことはありがたい。

料金が有償化することについて、料金設定は別として受益者負担という発想はもっともな話ではないか。「有料になったとは、とんでもないことだ」という人もいるかもしれないが、それに耳を貸して身動きできなくなるのは愚の骨頂である。少しの痛みを分け合えばいい。

いい商品であっても情報が届かなければ売れないので、「のるーと」についてもわかりやすくPRしてほしい。

(会長) タクシー会社さんには苦しい現状を伝えて頂いて、その上で前向きな意見を頂いたのは非常に感銘を受けた。いろいろな課題が出てくるが双方で解決できればと思う。町の活性化が大きな課題であるので、この方向で課題を解決しながらやっていきたい。

(委員) 「のるーと」はもともと西鉄とソフト会社の共同制作と聞いたが、タクシー会社が参加すると関係図はどうなるのか。

(委員) 西鉄と三菱商事でネクストモビリティというオンデマンドの会社を立ち上げている。共同開発したネクストモビリティがタクシー会社に運行を委託するという形態になるので、基本的に西鉄バスと競合するということにはならないと考える。

(事務局) 補足として、システムの提供をネクストモビリティが行い、システムをタブレットとして車両に搭載しそれをタクシー会社が使う。事業主体は町であるので、町の方からシステムの使用料をネクストモビリティに支払う、運行に関する費用は町からタクシー会社に支払う流れになる。

(委員) 「のるーと」を入れていこうとする方向性の中に、今後出てくるであろう課題を県として共有したい。

オンデマンドバスを入れる場合において、エリアの問題が出てくる。一運行で回れるエリアは限定され、おそらく2~4エリアに分けなければならない。分け方はどうするか、校区か、多くを履行できるのか。

料金については、県内全域として有償化は進んできている。人が減ってきている中で、受益者負担の考え方はやむを得ず必要であろう。現在、無料で運行していることはすごいこと。

デメリットの一つとして、毎日乗る人は毎日予約しなければならないのは手間になる。主体的に動かなければならず、待てば来るバスに乗り慣れているので、文化が変わることは決して小さくない。この点は住民によく理解してもらいたい。会員登録が必要となることも課題。町外の人には気軽に乗れなくなる。

弊害としては、ヘビーユーザーがどうしても限定してしまい先細りする。

オンデマンドを入れるときは、既存路線バスと共存できるような、競合しない考え方が基本。

(委員) アンケートの素案を見せて欲しかった。タクシー会社やバス会社の人にとっても尋ねてほしい質問があるのでは。会議で議論して素案を固めていくことが手順である。それをしないと本当のニーズがわからない。

また、結果の信頼性があるアンケートが大事。その意味で実際に乗って聞き取りすることはいいこと。それに追加して乗っていない人に満遍なく聞き取りするためには、区長さんの協力が必要。そのためにこの会議がある。

今日ここへ来るときにホームページを見たが、うみハピネスまでの路線バス等の交通アクセス情報が載っていない。公共交通を利用しない子育て世代が増えてきており、バスを使うことが面倒でいきなり車を使っている。公共交通は面倒くさい、わからない、不便と思い込んで、そこからしかスタートしない。まずは、イベント等を利用して公共交通を使う習慣や機会を作ることが必要。乗ってみる機会を作らないと、システムを入れても、いつまで経ってもバスを利用しないのではと心配している。

事業者の一つメリットがあるとすれば、委託料という形で支払われる契約になっていれば、固定的に経営を助けてもらえる。

路線バスとのすみ分けをしたり、家の戸口まで来て便利にするのだから思い切って料金を500円にしたりとか、最低乗車人数を下回るとその地域の運行をしないとか、それくらいまでやらないとみんな共倒れしてしまう。「のるーと」ではなく、500円程のタクシーチケットを500年間48枚配布して、近所で乗り合いしてもらおうことなどの選択肢を入れるべき。

そういったことも選択肢に入れていかないと、全部を一気に変えるようなやり方をするとみんなが潰れてしまう。

現在無料のハピネス号を有料にした場合、いくらだったら払うか、アンケートで聞いてみる。乗らない人ほど金額は低い。本当に必要としている人の金額は高く、オンデマンドバスの料金を500～600円に設定しても乗ってくれるかもしれない。共倒れしないために、やれる範囲で本当に乗ってくれる料金の見極めの調査をお願いしたい。

調査項目を開示してほしい。委員の意見を聞いて、それからのアンケート調査でも遅くないのでは。

例えば、ハピネス号を100円や200円で走らせてみて、どれくらい乗ってくれるか計ってみるといい。それでも乗ってくれるならば、宇美町の住民の方はちゃんと公共交通にお金を払ってくれる。そうであれば、「のるーと」のような少し高いものも入れられるかもしれない。ただ、100円になったらお金払わないよとなると、何を入れてもお先真っ暗だと思う。いくらだったら払うのかアンケートで聞いてみてほしい。きっと「しきい値」があると思う。

そういう構図でないと全部を手広くというのは、どこの会社も無理ではないか。

- (委員) 問題を抱えていないコミュニティバスはない。「のるーと」に舵を切ったというのは新しい試みであり、相当な苦労があると思うが、何かあれば現場として何でも協力できる。
- (委員) 新しいことを導入しようとする、今まで以上にコストをかけないと始まらない。その覚悟は町にあるのか。財政的に大丈夫なのか。今までの財源だけではいくら補助があっても、なかなか難しいのではないか。
- (会長) コストについてもこれからの検討材料になる。新しい試みは、たくさんのリスクを抱えながら課題を越えなければならない。次回、アンケートについての審議は可能か。
- (事務局) 本来早くに検討していたが、コロナ禍もあってアンケートの実施ができなかった。アンケートそのものについても会議の中で意見を頂戴したい。
- (会長) 今日の段階では皆さんの意見を集約することに留めさせていただき、次回アンケート等具体的なことの審議と、どういうふうに方向性をもっていくかの審議をしたい。
- いろいろな課題があることを実感している。今後ともご協力いただきたい。

## 5 その他（事務連絡）